



あかまつ

与進小学校便り

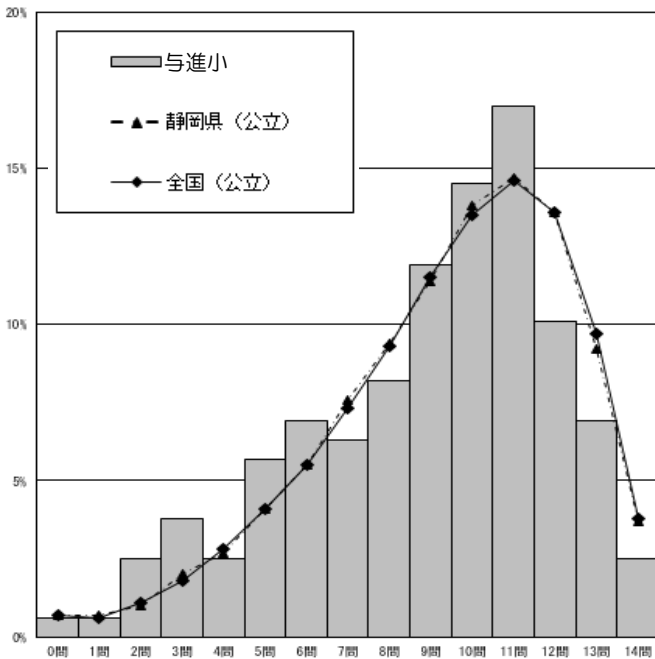
令和5年10月20日
学力調査特別号

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について

4月に6年生が実施しました「全国学力・学習状況調査」の結果が公表されました。全国、浜松市の結果と比較して本校の結果や傾向をまとめました。

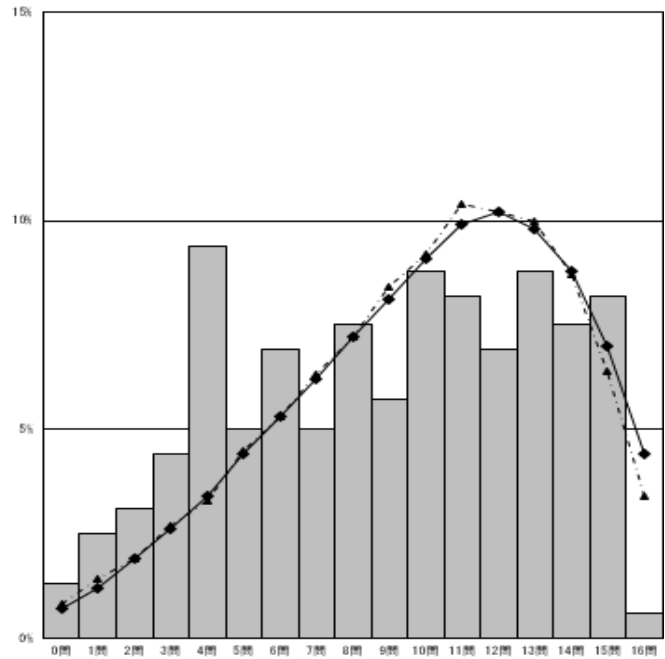
1 正答数分布から見る本校の傾向

【国語】正答数分布グラフ



中位層はほぼ全国平均並みかそれ以上であるが、上位層が少なく、正答率が2～3割の児童が多い。

【算数】正答数分布グラフ



正答率が6割を超える児童の割合が、全国平均に比べて少ない。正答数が1～4割程度の児童が多い傾向にある。

全体として、国語・算数ともに、浜松・全国平均と比べ「下回る」結果となりました。

グラフから、本校における全体の散らばり（学力差）は、正答率の高い児童の割合が全国平均に比べて低く、2～5割程度の点数にとどまる集団が多い傾向にあります。また、無答率は問題の後半に行くにつれて高くなっており、時間配分も原因だと考えられます。正答率が低い児童への対応は今年度も課題です。この結果を真摯に受け止め、一人一人の学力を高める指導方法の工夫について検討し、一層充実した授業をしていきたいと考えます。

2 国語・算数の平均正答率と回答の傾向、改善点

【国語】

(1) 国語の平均正答率（令和4年度）

本校	浜松市	全国
64%	69%	67.2%

(2) 国語科に関する意識調査より

設問	肯定的な回答の割合		否定的な回答の割合	
	本校	全国	本校	全国
国語の勉強は好きですか。	57.4%	61.5%	42.0%	38.5%
国語の勉強は大切だと思いますか。	91.6%	94.2%	7.7%	5.8%
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	94.2%	92.8%	5.2%	7.0%
解答時間は十分でしたか。	50.6%	64.1%	45.7%	32.9%

本校の児童は、国語の学習が好きな児童や「大切だと思う」と考えている児童は全国平均に比べ、少ない結果でした。しかし、「将来役に立つと思う」児童については、全国平均に比べて高く、また、質問紙調査において「言葉には相手との好ましい関係をつくる働きがある」「立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめている」と答えた児童の割合は、全国平均を上回っていました。

回答時間については、全国平均と比べかなり低い結果であり、時間が足りないと感じる児童が約半分でした。

(3) 国語科の傾向

◎文脈に即して漢字を正しく書く問題において、正答率が全国平均を上回りました。普段の漢字学習（書き取り、漢字テスト）などの基本的な定着を積み重ねてきた成果と言えます。

●選択肢のある問題に比べて、文章で回答する問題の正答率が全国平均に比べ低いことが分かりました。複数の情報を整理して自分の考えをまとめたり、相手が分かるように工夫して書いたりすることに課題があります。このことに関しては、全国、静岡県も同じような状況が見られます。

〈問題例①〉

相田さんは、資料を読み、運動と食事について分かったことをもとに、これから自分ができそうなことを考えてまとめようとしています。あなたなら、どのようにまとめますか。その内容を次の条件に合わせて書きましょう。

本校 正答率 50.3%

全国 正答率 56.2%

[解答例の分析と課題]

運動と食事について書くことはできたが、自分ができそうなことが書けていない。 6.9%

運動または食事のどちらかは書け、自分ができそうなことは書けた。 18.2%

運動または食事のどちらかは書け、自分ができそうなことは書けていない。 1.2%

〈誤答の傾向〉

複数の情報がどのように関係しているのか、さらに自分の考えを結び付けて書くことを意識できていない。

(4) 本校としての改善点

○考えをまとめる際に、単一の情報に基づくのではなく、複数の情報を比較したり、関連付けたりして検討できるような活動を設定していきます。また、自分の考えをまとめたり、分かったことを書いたりする活動を学年の発達段階に応じて増やしていきます。

○本校では、全ての教育活動において「温かい聴き方・やさしい話し方」を指導しています。「温かい聴き方・やさしい話し方」の「聴き方」「話し方」をそれぞれ10のレベルに分け、学年の発達段階に応じて指導しています。高学年では特に、ステップ6「自分の考えと比べながら聴

く」、ステップ7「話の中心を分かろうとして聴く」と共に、ステップ9「話題につなげて話す」などを通して、課題に沿った話し合いができる活動を設定してきます。

○6年生では、家庭学習として作文に取り組んでおり、習った漢字を用いて文を書くよう指導しています。その他の学年においても、日頃から既習漢字を用いて感想や振り返り、日記を書いたり、文脈に合った漢字を選んだりして使うように指導していきます。

【算数】

(1) 算数の平均正答率

本校	浜松市	全国
55%	63%	62.5%

(2) 算数に関する意識調査より

設問	肯定的な回答の割合		否定的な回答の割合	
	本校	全国	本校	全国
算数の勉強は好きですか。	54.9%	61.4%	44.5%	38.6%
算数の勉強は大切だと思いますか。	89.6%	94.2%	9.7%	5.7%
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	92.3%	93.3%	7.1%	6.5%
解答時間は十分でしたか。	76.5%	84.5%	20.3%	13.4%

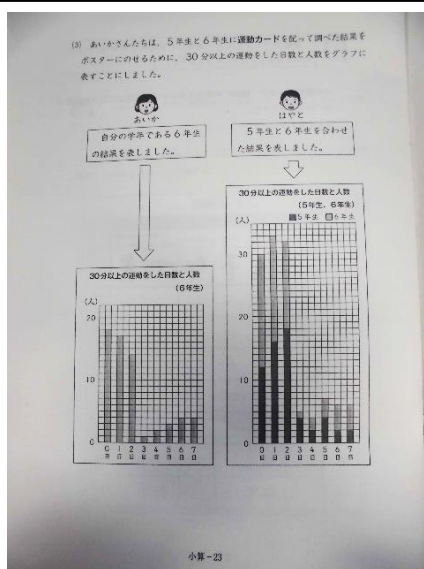
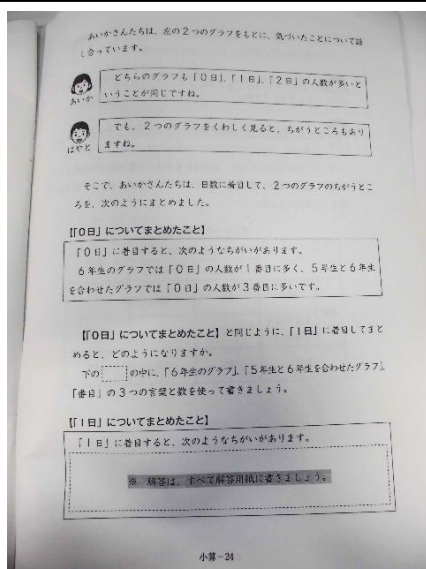
本校は、「算数の学習が好き」「算数の学習は大切」と答えた児童が全国平均を下回っています。一方、「役に立つ」と答えた児童の割合は全国平均と同等の割合で回答していることから、国語と同様に、必要感を感じているものの苦手意識が強い傾向があると考えられます。

解答時間については、「十分でない」と答えた児童が多くいます。後半の問題になるにつれて無回答率が上昇する傾向が見られることから、問題の理解や解答に多くの時間を要していたと考えられます。

(3) 算数の傾向

- 三角形や四角形の名称とその特徴を問う問題や、三角形の面積の大小について分かることを選択する問題など、図形領域の問題での誤答が多く見られました。
- 二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」の人数に着目して、分かることを書く問題について、記述の条件に沿って正しく書けずに誤答となるケースが多数見られました。問題文の読み取りや記述条件の把握が不十分であることが原因だと考えられます。(問題例②)

《問題例②》



(平均正答率 本校：46.5%、全国：56.2%)

(4) 本校としての改善点

- 図形領域の単元が終わった後も、定期的に復習の機会を設けて各学年での図形領域の確実な定着を図っていきます。
- 問題の意味や条件の理解を深めるために、作文や日記、振り返りなどを通して、定期的に文章に慣れる機会を設けています。

【質問紙調査の結果より】

設問	本校	浜松市	全国
自分にはよいところがあると思う。	80.0%	87.9%	83.5%
人の役に立つ人間になりたいと思う。	94.2%	96.4%	95.9%
将来の夢や目標をもっている。	77.5%	85.1%	81.5%
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。	82.6%	74.7%	78.8%
学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	81.9%	71.7%	81.8%
学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。	74.2%	74.5%	77.4%
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。	89.6%	93.5%	89.8%
困り事や不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。	78.7%		68.5%
5年生までに（1，2年生のとき）に受けた授業で、コンピュータなどのICT機器を週1回以上使用していた。	82.0%		86.3%
学校の授業時間以外に、普段（月～金）1日当たり1時間以上読書をする。（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。	25.4%		18.5%
新聞を読んでいる。	11.0%		12.6%
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。	80.6%		75.7%

(1) 質問紙調査の傾向

- ◎質問紙調査から、友達とのかかわりの中で考えを広げ深めたり、自分の行動を改善したりしていることが分かりました。これは、キャリア教育で付けたい力の4つである、「人と関わる力」「自分を見つめる力」「挑戦し、解決する力」「未来につなげる力」が育っていると考えられ、浜松・全国の平均よりも大幅に上回る結果となりました。学校生活の中で、キャリア教育を意識してきたことや、校内研修において「温かい聴き方・やさしい話し方」を重点とした学級づくりに取り組んできたことに対する成果の一つだと考えられます。
- ◎「自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と答えた児童が、浜松・全国の平均より高く、「対話的な学び」の視点からの授業改善が進んでいることが確認できます。
- ◎「学校の授業時間以外に、普段（月～金）1日当たり1時間以上読書をする。」と答えた児童が全国の平均を上回っています。昨年度の2学期から図書室の利用制限がなくなり、毎日図書室で

貸し出しを行うようになったことや、御家庭での啓発の成果が出ていると考えられます。今後ぜひ御家庭でも、お子さんが活字に触れる機会が増えるよう声掛けをしていただくと有難いです。（昨年度も記述しましたが、読書をすることにより、語彙が増えたり、言葉から豊かに想像を広げたりする力が育まれます。それは、テストにおいても、問題に書かれている内容を、具体的なイメージをもって理解することにつながると考えます。また、低学年では、絵本等の読み聞かせの経験が本好きな子を育てます。）

- 「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標がある」と答えた児童が浜松・全国の平均を下回っていますが、「先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と答えた割合は、平均を大きく上回りました。一人一人のよさを認め寄り添い続け、自己肯定感の高揚を目指していきたいと考えています。
- ICT 機器の活用について、全国平均に比べて低い傾向にあります。
- 「新聞を読んでいる」傾向は、全国平均を下回っています。読書量は全国平均を上回っていますが、自分が好きな分野の本を読むばかりで今回の問題のような説明的文章を読む力が身に付いていないことが考えられます。

（２）改善点

- タブレットを積極的に活用し使い方を覚えていくことは非常に大切です。しかし、ICT 活用に伴うトラブルやネット依存、視力の低下を防ぐという観点から、本校ではタブレット使用の決まりを定めています。授業での活用については、意見交換や意見の集約、資料の提示等、目的に応じた効果的な活用の仕方について職員研修を通して学びつつ、安全に活用できる場を増やしていきます。
- 文章を読み解く力や文章で分かりやすく説明する力を高めるために、6年生では作文の家庭学習を継続していきます。その他の学年では、各教科・領域の学習の中で、発達段階に応じて自分の考えを文章で分かりやすく伝える活動に取り組んでいきます。
- 夢や目標をもち、前向きに取り組む子を目指して、6年生の長上学習では「未来に向かって」をテーマに、自分を見つめ将来の目標ややりたい職業について調べる活動を行っています。夢を具体的にすることで今の自分がやるべきことや目標が定まり、より前向きに学習に取り組むことをねらいとしています。その他の学年においても、長上学習や行事では、ゴールややりたい姿、めあてを明確にして取り組んでいます。今後も浜松の教育の重点でもあるキャリア教育に力を入れ、授業や学校行事の中で、キャリア教育でつけたい4つの力（「人と関わる力」「自分を見つめる力」「挑戦し解決する力」「未来につなげる力」）を児童と教員が共に意識し、目標をもって、活動していきます。

令和2年4月1日より、小学校では新しい「学習指導要領」（国が定めた学校教育の基準となるもの）が完全実施となりました。本校では、2年前から「学習指導要領」の作成に大きくかかわった高木展郎先生（横浜国立大学名誉教授）の御指導をいただきながら、「聴く・話す」を大切にした「主体的、対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して、子供たちの資質・能力をはぐくむ教育を目指しています。とはいえ、まだまだ改善しなくてはならない点は多くあります。

今後、さらに子供たちが主体性をもって学習に取り組み、充実した学びになるように、実践を進めていきたいと思っております。保護者の皆様の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。